

工藤篤子メールマガジン140号 2009.05.26

●ミャンマー支援チャリティーコンサート

お元気でいらっしゃいますか？

5月19日の札幌でのミャンマー・サイクロン被災救援チャリティーコンサートをもって、上半期の中国・日本でのコンサートを、主の恵みのうちに終えることができました。

皆さんのお祈りのお支えを、心から感謝いたします！

写真右は、札幌チャリティーコンサートの協賛教会であり、昨年秋に新築された「札幌希望の丘教会」です。コンサートに適した実に素晴らしい音響の会堂でした。写真は、パワーポイントで、ミャンマーの現状を説明させていただいているところです。コンサートには、求道者、ノンクリスチャンの方も多く集われ、主が良き伝道の時とさせていただきました。



●ミャンマー・サイクロン被災救援

昨年、ミャンマーでは、5月にナルギスというサイクロンの大被害を受け、45万の家屋が損壊、35万の家屋が被害を受けました。死者、行方不明は、13万人以上に上りました。ミャンマーでは、国民の7



0%が農業、漁業に従事していますが、サイクロン被害を受けたヤンゴンを中心とするイラワディーデルタ地帯では、農作物が全滅しました。その後、昨年の9月にも、同じ地区をサイクロンが襲い、現在に至るまで、大変深刻な状況が続いています。

AKMMでは、昨年11月に、大阪で、ミャンマー・サイクロン被災救援チャリティーコンサートを開催しました。そのときお捧げしたコンサート支援金により、三軒の家屋（写真左上がそのうちの1軒）が建てられ、コミュニティーセンターが現在建設中です。また6人の若者（写真右上のうちの6名）が、聖書の学びのセミナー（6か月で1万円）を受けられるようになりました。

今回、再び、札幌でも、ミャンマー被災のためのチャリティーコンサートをさせていただいたのは、今なお、50万の人々が、仮設住宅で暮らしているような状態だからです。また、食糧不足で、多くの人々は

慢性的な栄養失調です。そして、「安全な水」の確保がミャンマーの緊急課題です。今回、2度目の献金をお捧げすることによって、引き続き、ミャンマーの皆さんを支援したいと思っています。

また、今回は、ミャンマーで宣教師として働いて来られた松元緑宣教師が4月に帰国されたため、コンサート前に、直接お会いしていろいろお話しを伺うことができました。

以下、松元宣教師からいただいた、30歳になる男性の体験と証しをご紹介させていただきたいと思いません。

「海老採りが仕事だった。家族は妻と6歳、2歳、3ヶ月の息子。妻はクリスチャンで、教会に行こうとよく誘われたが、俺は行かなかった。その日は家にいた。午後、風が激しくなってきた、雨が横殴りになった。危険だったので、妻と子供を連れて義兄の家に行き、親方の家に避難した。親方の家は大きかった。水位が上がってきて、親方のところも危なくなってきた。僧院に非難しようとして行ってみると、僧院の前は人でもういっぱいだった。親方が小高いところがあると言って、そこに舟で向かったが、波が高くて水路も分からなくなっていた。風が激しく吹き荒れ、舟が高い波にもまれ、前にも後ろにもいけない。木立に舟をロープにくくって、流されないように親方と懸命に守った。波がますます高くなった。川底に棹が届かなくなっていた。舟が水路から出て、海の方に流され始めた。目を開けていることさえできない。親方が大声で何か叫んだ。義兄の驚愕する叫びが聞こえた。真っ暗で何も見えない。妻や子供の姿も見えない。大波を被って、体が波の中に引き込まれた。浮いているものにしがみついて、必死に泳いだ。15分ほどだったか、1時間だったか、覚えていない。とにかく泳いだ。とても寒かった。岸にたどり着くと、気を失った。

翌朝、人の声で目覚めた。水が引いていた。妻と子供たち、義兄や親方の姿を探した。名を呼びながら7、8日間探し続けた。死体が散乱していた。妻も子供も、義兄も親方もみな死んでしまったことが分かった。「誰も助けられなかった。自分も死ねば良かった」と思った。

一か月ほど避難所で過ごし、村に帰った。海老採りに戻ったが、妻も子供ももういない。生きていてもしょうがない。死にたかった。酒を飲まないではいられなかった。そんなある日、村で牧師に会った。福音を語ってくれた。試しに信じてみた。心に平安を感じた。賛美歌を歌ったときも安らかな気持ちになった。でも、日曜日は教会には行かないで、酒を飲んでいた。

村で10日間の聖書の学び会があるから来ないかと、牧師に誘われた。第3日目に、救いについて教えられ、救いとは何かはしっかり理解できた。そのころは酒をやめていたが、まだベテルナツ（ピンロウ樹の朱赤色の実をキンマの葉に包んで石灰などととも噛む。ミャンマーでは多くの男性の習慣性の嗜好品になっている）をやっていた。良くないことは分かっていたが、どうしてもやめられないでいた。第7日目に「自分たちの体は神の宮であるから、清く保たなければならない」と教えられた。その日ベテルナツをすっぱりとやめることができた。

10日間よく祈り、聖書をむさぼるように読んだ。キリストを救い主として心から受け入れ、信じた。学びが終わったとき、牧師が、神様をもっと知るために訓練学校に行かないかと、勧めてくれた。うれしかった。生きる希望がわいてきた。

身一つで訓練学校に来たら、寝るところ、食べるもの、着るものすべてが用意されていた。その上、神様について学べる。授業料もすでに払われている、という。学びはとても楽しい。今までまったく知らなかったことばかりだ。神様の前に罪を一つ一つ全部言い表して、心から悔い改めた。赦されて、イエス・キリストの血によって清めていただいた。これからは神のみ前に身をささげて生きていこうと決心した。村に戻って、福音を知らない人々に福音を伝えたい。」



●お知らせとお祈りのお願い

写真左は、ミャンマーの種籾です。今、ミャンマーは、田植えの時期を迎えています。サイクロン被災地区の多くの人々は、田んぼに播く種を買うお金がありません。また、サイクロンで、農民は多くの牛、水牛を失ったため、耕作のために、緊急に牛や水

牛を必要としています。ちなみに、牛、水牛の見込み価格は約5万5千円、種粕の価格は4反あたり、約62円です。

AKMMでは、ミャンマー救援献金を受け付けます。導かれた方は、「ミャンマー献金」と書いて、6月5日までに、以下の口座にお振り込みください。

工藤篤子音楽ミニストリーズ

郵便振替口座 00900-7-317989

今週、東京、大阪にて秋のコンサートの打ち合わせをし、29日にドイツへ帰ります。6月は、数日ドイツにて休息と静思の時を持たせていただいてから、6月下旬から始まるヨーロッパでの伝道コンサートの準備をさせていただこうと思っています。以下、6月7月の賛美コンサート予定ですので、各地での賛美伝道のためにお祈りお支えください。



6月26日(金) オランダ、アムステルダム日本語キリスト教会主催 工藤篤子ソプラノコンサート「とこしえに真実なお方」 19:30
会場：Titus Brandsma kerk ティトゥス・ブランドスマ教会(通称、水の教会)
住所：Westelijk Halfrond 1, Amstelveen
オランダ日本語教会
<http://www.jcfn.nl/jp/jp-agenda.html>

7月 4日(土) オランダ、南部集会主催 賛美コンサート
会場：アイントホーフェン改革派教会
Nederlands Gereformeerde Kerk Eindhoven Frederik Hendrikplein 35, Eindhoven

7月 5日(日) ベルギー、ブリュッセル日本語キリスト教会賛美コンサート
http://sky.geocities.jp/brussels_japanese_church/index.htm

では、今回は、ドイツからメルマガをお送りいたします。

皆様の上に、主の溢れる恵みと祝福がありますように！

工藤篤子